

一般国道51号 成田橋（千葉県成田市）鉛直部材の調査について

記者発表資料

1. 概要

ねこな

一般国道51号の根木名川を渡河する成田橋（昭和54年供用）において、中央分離帯のコンクリートに埋め込まれている13箇所のアーチ鉛直部材（鋼製）の内1箇所について、付け根のコンクリートを除去し点検した結果、き裂が確認されました。現在確認されているき裂は鋼材の付け根の一部に生じているものであり、当面の交通に支障はありませんが、放置しておく、き裂の進展の可能性等もあることから、引き続き詳細調査と対策の検討を行ってまいります。

2. 詳細調査の実施

確認されたき裂については進展の有無を監視しており、他の12箇所の鉛直部材においても、き裂の有無や溶接の状態を非破壊試験（磁粉探傷試験、超音波探傷試験）により調査（1月中旬～2月中旬）を行い、必要に応じ補修・補強対策を実施する予定です。なお、詳細調査の結果については別途お知らせする予定です。

3. 応急対策の実施

当面の交通に支障はありませんが、万が一き裂が進展した場合等に対する安全性を確保するため仮設支持材を設置しています。

4. その他

き裂が確認された箇所は橋梁の中央分離帯部であることから、現地での取材を希望される方は、下記問い合わせ先までご連絡下さい。

平成20年1月16日

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所

発表記者クラブ

- ・竹芝記者クラブ
- ・横浜海事記者クラブ
- ・神奈川建設記者会
- ・千葉県政記者会
- ・千葉市政記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所

副 所 長 齊藤 厚(さいとう あつし) (内線 205)

管理第二課長 間藤 安弘(まとう やすひろ) (内線 441)

TEL 043-287-0315

1. 橋梁の概要

- ・ 橋 梁 名：成田橋
- ・ 所 在 地：(一般国道51号)千葉県成田市東町～東和田
- ・ 橋梁形式：単弦口ーゼ桁橋
- ・ 橋 梁：L = 98.8m
- ・ 全 幅 員：W = 25.05m (4車線)
- ・ 架設年次：昭和54年(1979年)

2. 鉛直部材のき裂確認

中央分離帯のコンクリートに埋め込まれている13箇所のアーチ鉛直部材(鋼製)の内1箇所について付け根のコンクリートを除去し点検した結果、き裂が確認されました。

き裂長さ 34mm・・・1箇所
8mm・・・1箇所
6mm・・・2箇所

現在確認されているき裂は鉛直部材の付け根の一部に生じているものであり、当面の交通に支障はありませんが、放置しておくこと、き裂の進展の可能性等もあることから、引き続き詳細調査と対策の検討を行っていきます。

3. 詳細調査の実施

確認されたき裂については進展の有無を監視しており、他の12箇所の鉛直部材においても、き裂の有無や溶接の状態を非破壊試験により調査(1月中旬～2月中旬)を行い、必要に応じて補修・補強対策の検討を実施する予定です。

なお、詳細調査の結果については別途お知らせする予定です。

非破壊試験

磁粉探傷試験・・・磁粉を試験体の表面に散布し、割れなどの傷の部分に吸着されてできた磁粉模様により、傷を検出する方法

超音波探傷試験・・・超音波を使って金属などの内部にある有害な傷や溶接の溶け込み状況を検査する方法

4. 応急対策の実施

当面の交通に支障はありませんが、万が一き裂が進展した場合等に対する安全性を確保するため仮設支持材(2箇所)を設置しています。

なお、根木名川の遊歩道については、一部迂回措置をとっております。

位置図

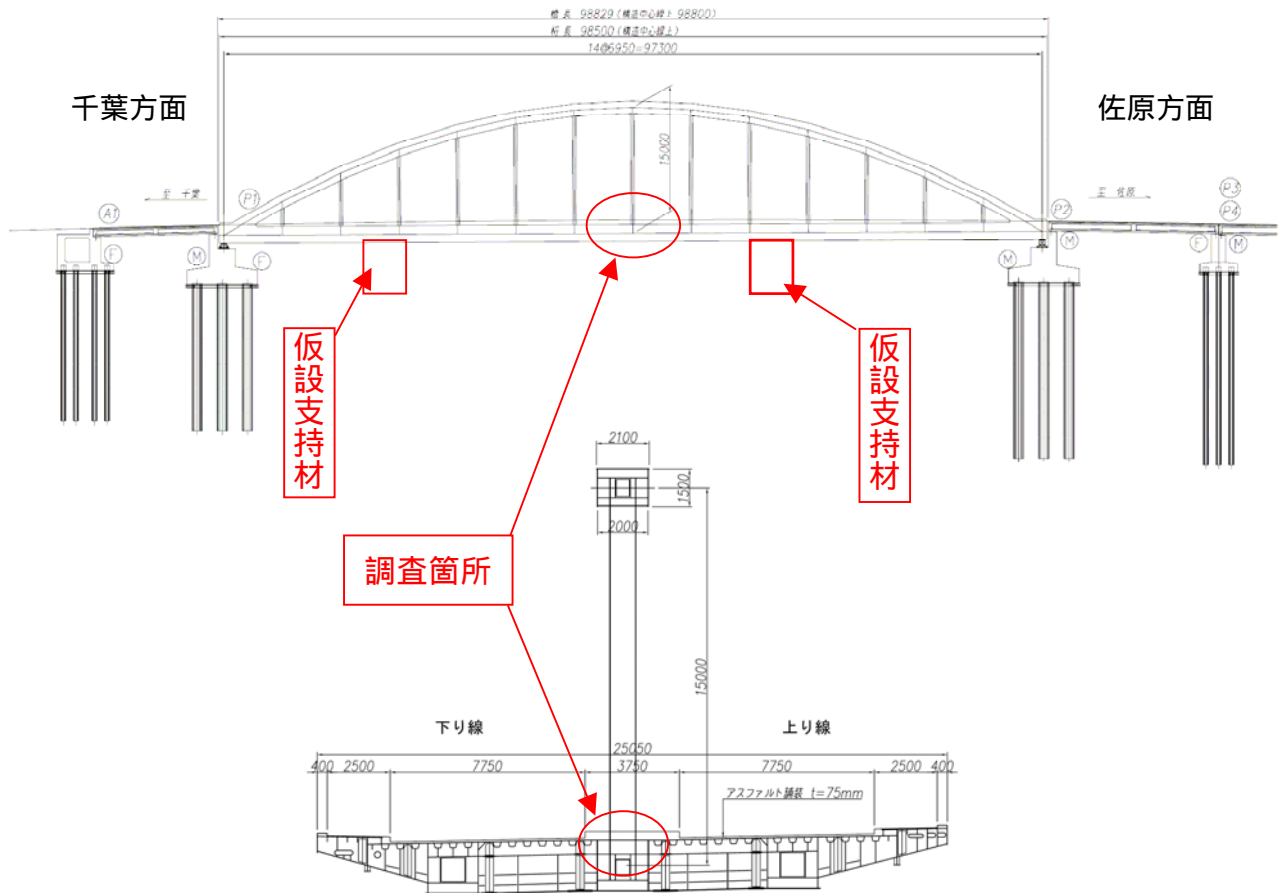


佐原方面



千葉方面

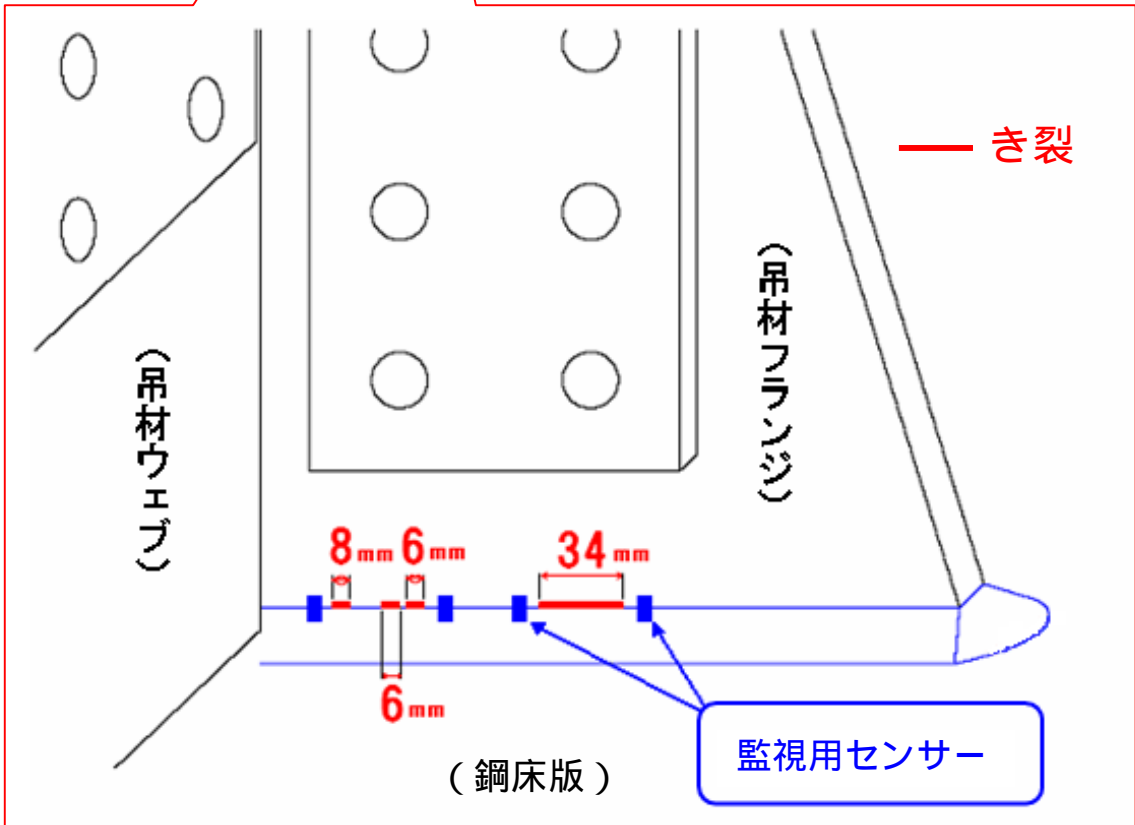
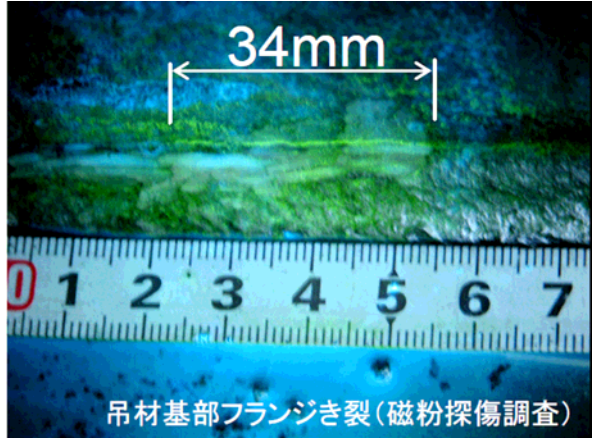
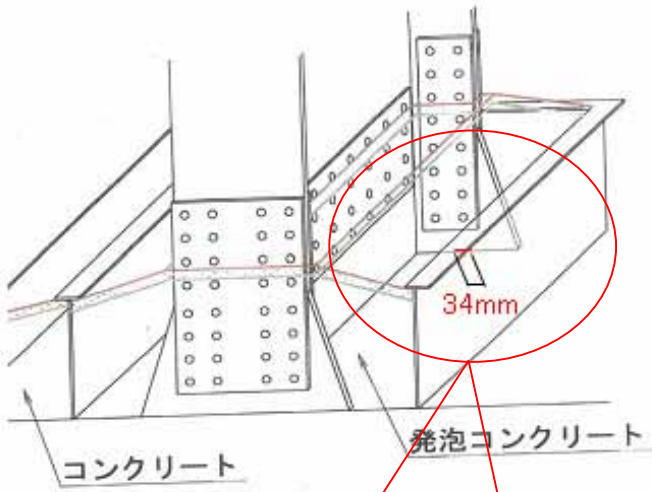
調査箇所



成田橋全景



詳細図



仮設支持材設置位置

